

機体炎上 乗客救え

県など15機関
岡山空港で訓練
200人が対応確認



岡山市北区日応寺の体が破損して炎上、乗員らが乗客を担架な岡山空港で17日、航空客・乗員80人のうち30機事故を想定した総合人が負傷したーとの想訓練が行われた。県や定で行った。

県警、同市消防局など管制塔からの知らせを受け、消防車や救急15機関の計約200人が参加し、対応を確認した。

航空機が主脚の故障放水の後、機体に見立たたへり1機が急行。ターボヘリ1機が急行。車など車両15台、ドクターへリ1機が急行。度に応じて本格治療のため胴体着陸し、機放水の後、機体に見立てたバスから県警機動隊が路脇に設けた救護所で

は、医師や看護師でつくる災害派遣医療チーム員らが応急処置を行った上で、負傷の程度に応じて本格治療の方法を判断していく。

訓練は県岡山空港管理事務所が関係機関に呼び掛け、2年ごとに実施。花田修一所長は「万一の事故の際、そぞろが速く行動できるよう連携を密にしていきたい」と話した。
(小谷章浩)

航空機事故を想定した訓練で、負傷者の応急処置などを実行する看護師ら